

プロポーザル課題提示

Ⅰ. 課題提示

第3次生駒市教育大綱および生駒南小学校・中学校施設一体型整備事業基本計画に基づき、以下の3つの視点を有機的に統合した校舎設計を提案してください。変化し続ける授業・学びを支える環境と、地域の人々と未来をつなぐ公共空間としての価値を追求する設計が求められます。

① 子どもの主体性・協働性を育む、小中一貫教育を支える空間構成

- ・義務教育学校としての9年間の学びの連続性・発達段階に応じた学びの変化に対応する空間構成と動線計画
- ・個別最適な学びと協働的な学びを支える可変性と柔軟性を持った学習空間
- ・教科の枠を超えた学びやプロジェクト型学習、多様なスタイルの学びが展開できるような「学びのハブ空間」や「共創スペース」の設計
- ・異学年・異年齢での交流や学び合いを自然に生み出す構成への配慮
- ・子どもたちが安心して過ごせる小さな居場所（図書コーナー、オープンな個別スペースなど）も意識
- ・子どもたちの学びを支える教職員にとっても働きやすく、協働しやすい環境づくりへの配慮

② 地域住民が日常的に訪れ、交流・学び合う場としての機能

- ・日常的な地域開放を前提としたゾーニングや動線分離、安全性と親しみやすさを両立した設計
- ・保護者・地域住民・高齢者・福祉関係者など、多様な立場の人が安心して立ち寄り、学び合い、関わり続けられるような空間（例：地域連携スペース、プレイルーム、誰でもトイレなど）
- ・放課後や休日の活用、地域団体による継続的な利用を想定した設備・ICT・環境整備
- ・スマートロック・顔認証・予約システムなど、DX技術を活用した「地域に開きながら管理しやすい」交流空間の提案
- ・災害時には地域の防災拠点としての役割も果たせるよう、避難受け入れ、備蓄や非常設備などの観点からの提案

③ 多世代に優しい、心身の多様性に配慮したインクルーシブな環境

- ・すべての子どもが安心して過ごせるための空間的バリアフリー（車椅子・視覚障害・発達障害など）＋心理的バリアフリーの設計
- ・「静」と「動」の切り替えがしやすい空間構成（感覚過敏・不安のある子への配慮な

ど)

- ・子どもから高齢者まで、多世代が自然と交わることのできる建材の選定
- ・発達段階に応じた遊び環境や余白ある空間づくりの提案に加え、必要に応じて専門事業者との連携体制の明示（遊び・療育・安全設計分野など）。

■ 総合メッセージ

以上の3視点を、単独ではなく、交わりのある構成として、統合的に設計・提案することが求められます。地域の未来を担う子どもたちと、その子どもたちを支える地域社会が共に育ち合い、長く使い続けられる、「地域の公共インフラとしての学校」を構想してください。

2. 審査基準・採点表

評価項目	評価視点（加点要素含む）	配点 (満点)
教育理念・学びの 特色の反映	教育大綱・基本計画を的確に理解し、小中一貫の学びや主体的・協働的学び・異学年異年齢の交流や学び合いを支援する空間構成となっているか	30 点
地域開放性	地域住民・保護者・団体等が利用可能な空間配置やアクセス導線、開放性・安全性の設計がなされているか 災害時において、地域の防災拠点としての機能が担保されているか	15 点
インクルーシブ 設計	バリアフリー、ユニバーサルデザイン、多様な児童生徒や地域住民に配慮した設計がなされているか 発達段階に応じた遊具・空間、静と動の切替が可能な設計、専門的視点に基づく提案が含まれること	15 点
建築・空間の創造 性と機能性	教育活動にふさわしい創造的な空間提案であり、安全性、持続可能な環境への配慮、ランニングコストも考慮した維持管理のしやすさが確保されているか	20 点
設計プロセスに おける合意形成 と協働	地域・保護者・教職員など多様な関係者と協働して設計を進めようとする姿勢が示されているか。 (例：意見聴取の手法の工夫等が記載されていること)	10 点
実現可能性・提案 体制	設計提案が、実際の工事段階を見据えて工程・予算との整合が取れており、工事まで含めた現実的な実現可能性を有しているか。また、提案に関わる体制（設計責任者、監理予定者等）の明確さや実績、協働体制の信頼性が示されているか。	15 点

プレゼンテーション・熱意 (二次審査)	提案の理解しやすさ、質疑対応の的確さ、教育理念や地域と共にある学校への共感・意欲が感じられるか	10 点
価格	設計業務費の妥当性および積算根拠の合理性	5 点

3. 加点対象（最大 8 点）

以下の要件に該当する提案に対し、合計で最大 8 点まで加点します。

対象項目	加点要件	加点
地域開放性	DX 機能（スマートロック・予約システム等）を活用し、地域利用の利便性・安全性を高める具体的提案がある。	+3 点
実現可能性・提案体制	ICT・DX・遊具等、専門事業者との連携体制（JV・サブコン等）が明示されており、その体制を前提とした提案の実現可能性が高いと判断される場合	+5 点